



# ききょうだより

山県市立  
美山小学校  
第5号  
令和元年  
7月19日

==教育目標：『磨き 輝き 未来をともに拓く』==

昨年の7月は、西日本豪雨による甚大な災害がありました。多くの方が家族を亡くされました。心が痛みます。その後は猛暑日の連続でした。今年は、現時点で暑さはそれほどでなく、日照不足が心配されています。今日で1学期が終わり、夏休みです。命を大切に、一つのことを継続して取り組み、やりきって2学期を迎えられるよう指導しました。ご家庭でも励ましや見届けをお願いします。

## 「規律」「いじめ」「命」を考える

今年的美山小の1学期は、「規律」と「いじめ」のことを再度考えさせられました。一部の学級で、下のような実態がありました。

- 授業中に勝手に発言する。
- 仲間の失敗を多数で非難する。
- 自分の思いを大声で主張する。

こういう状況の学級では、「規律」や「正義」が揺らぎます。そのため学級内の弱い立場の児童は、安心して生活できなくなるものです。いじめも起きやすくなります。

私は、一昨年に赴任してからこれまで、保護者や地域の方にも、児童にも「美山小を安心して生活できる学校にしたい」と言い続けてきました。しかし、そうでない現実を目の当たりにして、申し訳ない思いで一杯です。辛い思いをされた児童・保護者もありました。本当に申し訳ございませんでした。

いじめや不合理な実態を認識してからは、解決に向け、できる努力をしてきました。2学期も全職員で、組織で情報共有し、対応していきます。どうぞよろしくをお願いします。

この1学期の出来事を振り返ると、人の心を傷付ける言動をそのままにしない難しさを感じました。つまり、悪口等を聞いても、「そんな事言ったらダメ」となかなか言えない現実があります。しかし、何らかの方法でそういう言動にブレーキをかけないと、いじめは子ども達の力で解決に向かわないと考えています。

一方で、命の大切さは言うまでもありません。夏休み後半には、2学期の事を心配して悩む児童もあるかもしれません。子どもたちの様子を注意深くみていただき、心配な点があれば適切な対応をお願いしたいと存じます。

## 仲間と同じ目標に向かいがんばる

### 心地よさを運動会で



「運動会」が戦前から今日まで続けているのは、運動会そのものやその取組の価値が今なお高いため

※写真と本文は関係ありません に他なりません。教育の目的は「学力と社会性を付ける」と考えています。この「社会性」を高める上で、運動会の意味があるのです。

高校球児が試合に負けて泣くのは、負けた悔しさより、この仲間と野球ができないさみしさからだとは思います。同じ目標に向かって仲間と努力する心地よさは、苦しい毎日を真剣に努力した者のみが味わえる幸せ感です。

運動会も同じ。全校が赤白に分かれて勝利に向かって努力します。勝てた団員のみいい思いができるのではやる意味がありません。どちらも、みんなで同じ目標に向かってがんばった心地よさを味わいます。こういう取組は、理屈抜きでがんばることのすがすがしさを味わい、目標を共有して努力した者のみが味わえる感覚を育てます。この経験は、地域や社会で活動する際のエネルギーとなり、「やりがい」につながります。先日「結団式」を行いました。赤団団長の山田侑依さんと白団団長の小森優香さんら応援リーダーの動きが見事でした。私たちは、応援団を含め全児童が仲間と共に努力した満足感を得られるよう支援します。(校長 河村 一彦)